

第二小学校等複合施設整備事業における実施設計等の概要について

1. 契約件名及び受注者

契約件名：立川市立第二小学校等複合施設整備事業

受注者：関東・長井特定建設工事共同企業体

2. 実施設計の概要

以下に示す内容は、実施設計の概要である。図面等については今後変更となる場合がある。

2-1 計画概要

階数	地上 3 階
建物高さ	16.50 m
延床面積	6,842.93 m ²
建築面積／建ぺい率	3,354.20 m ² ／ 29.60 %
容積対象面積／容積率	6,720.07 m ² ／ 59.31 %
構造種別	鉄筋コンクリート造
基礎	地盤改良による独立基礎

2-2 実施設計取りまとめまでの経緯

令和 8 年 1 月	実施設計着手・基本設計及び解体工事説明会開催
4 月	仮設校舎供用開始・既存校舎等解体工事着手
7 月	PTA との意見交換（設計案の概要説明・質疑応答・現場確認）
6 月～8 月	市政アドバイザー（建築・色彩・植栽計画）への意見聴取
7 月～8 月	新校舎等の「立川市中高層建築物の建築に係る紛争の予防と調整に関する条例」に係る個別説明

2-3 基本設計時点からの主な変更点

- ・創エネ 10%+Z E Boriented 相当から Z E Bready（校舎部分（体育館を除く。)) への省エネ基準変更（設備機器や開口部の仕様変更）
- ・省エネルギー対策のため、屋上設備機器置場の分散配置とともに屋上緑化形状の変更
- ・登下校の安全対策のための西側歩道拡幅に伴う地上部緑化計画の変更
- ・職員室のレイアウト変更（ワークスペースとリフレッシュスペースを兼用）
- ・DEN（隠れ家的（クールダウン等）小空間）を各学年 1 か所に割り当て（8 か所から 6 か所へ減）
- ・放送室を図書室内から東側に配置変更
- ・児童用トイレに温水洗浄機能付き暖房便座の設置

2-4 実施設計図

設計方針・配置計画図・平面計画図・立面計画図（別紙参照）

3. 今後の予定

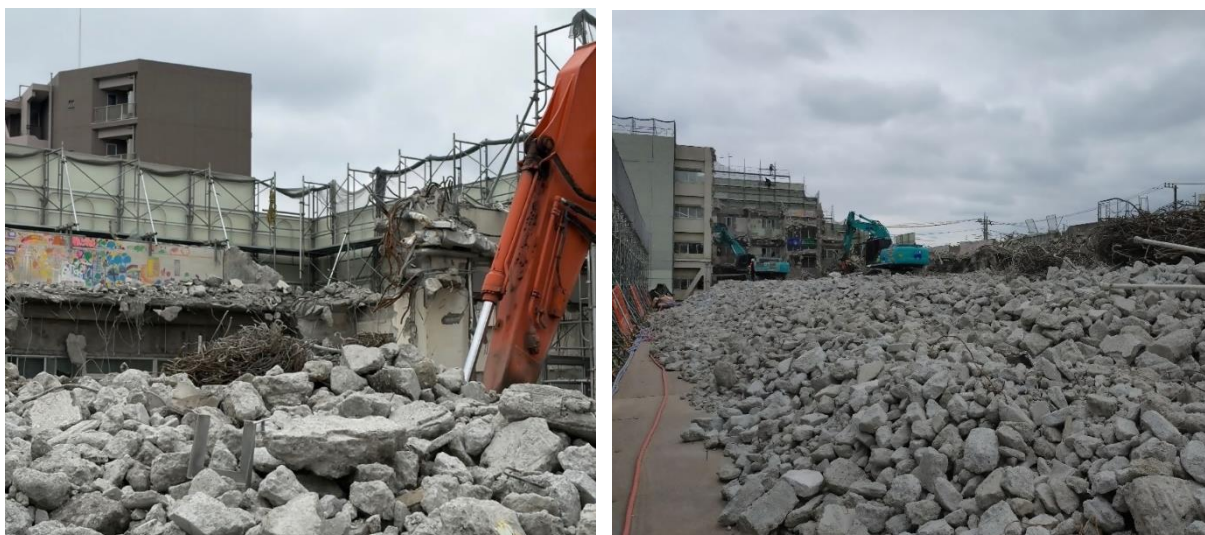
令和8年11月	解体工事完了・実施設計及び新校舎等建設工事に関する説明会開催
12月	実施設計完了・新校舎等建設準備工事着手
令和9年1月～令和10年12月	新校舎等建設工事
令和10年12月	新校舎及び新体育館へ引越し（冬季休業中）
令和11年1月～	新校舎及び新体育館供用開始・校庭整備及び既存体育館解体工事

4. その他

4-1 既存プール施設の解体

- ・第二小学校の水泳授業については民間委託を実施していることから、既存のプール施設は解体することとし、今議会最終日に解体工事設計委託料の補正予算案を提出する予定。

4-2 既存校舎の解体状況



既存校舎の解体現場（8月31日）

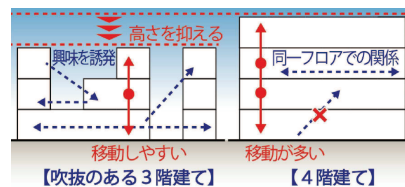
本事業目的である「子どもたちが主役となる拠点」として整備すること、また、本事業の基本理念を踏まえ、

「子どもたちの未来を育む地域とともに輝く学びの場」をコンセプトにした設計

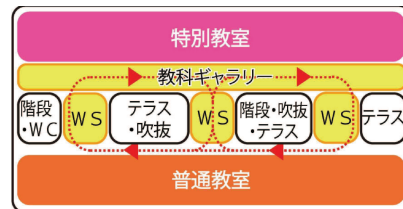
1) 設計基本方針

(1) 多様な活動を誘発し子どもたちのワクワクをのばす学校づくり

- ひととの出会いがにつながる一体感のある空間
 - ・校舎を3階建てとし、移動しやすく、声掛けのしやすい計画にすることで、様々な「学び」や「ひと」との出会いを誘発し、子どもたちの興味と関心を引き出します。
- 動線の交点で学びを発展させる学びの場
 - ・廊下を8の字型の環状動線とし、その動線上にWS(ワークスペース)や教科ギャラリーを設け、学ぶ楽しさ向上する「学びの場」をつくります。
- 教科を横断的に学び「知る」「創る」の循環的学習を促す環境
 - ・特別教室前の廊下には、カウンターデスクや展示スペースを連続させた教科ギャラリーや、知の創造性を育むWS・テラスを設け、様々な分野の教育を横断的に学ぶことのできる環境とします。



▲3階建てにより興味を誘発



▲動線上に配置した学びの場

(2) インクルーシブ教育と時代の変化に柔軟な教育環境づくり

- ひとつにつながる「見る・見られるの関係」の学び舎
 - ・見通しのよいフロア構成や吹抜けを計画し、他学年の学ぶ姿や創作活動等や、障害の有無に関わらず様々なひとと関わり、個々の成長を促進する学校を実現します。
- 個別学習とグループ学習が可能なWS
 - ・普通教室と特別教室の間には、様々な人数編制が可能なWSを配置し「個別最適な学び」と「協働的な学び」の両立した多彩な学びに応えます。
- フレキシブルなWS
 - ・WSは教室と一体的利用を可能とし、移動式キャスターパネル等により可変性を持たせ、個に応じた学習環境や協働学習等の学習形態に対応しやすい計画とします。



▲多様な学習環境に応えるWSのイメージ

(3) 安全・安心な施設計画と地域の防災拠点づくり

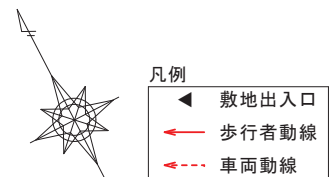
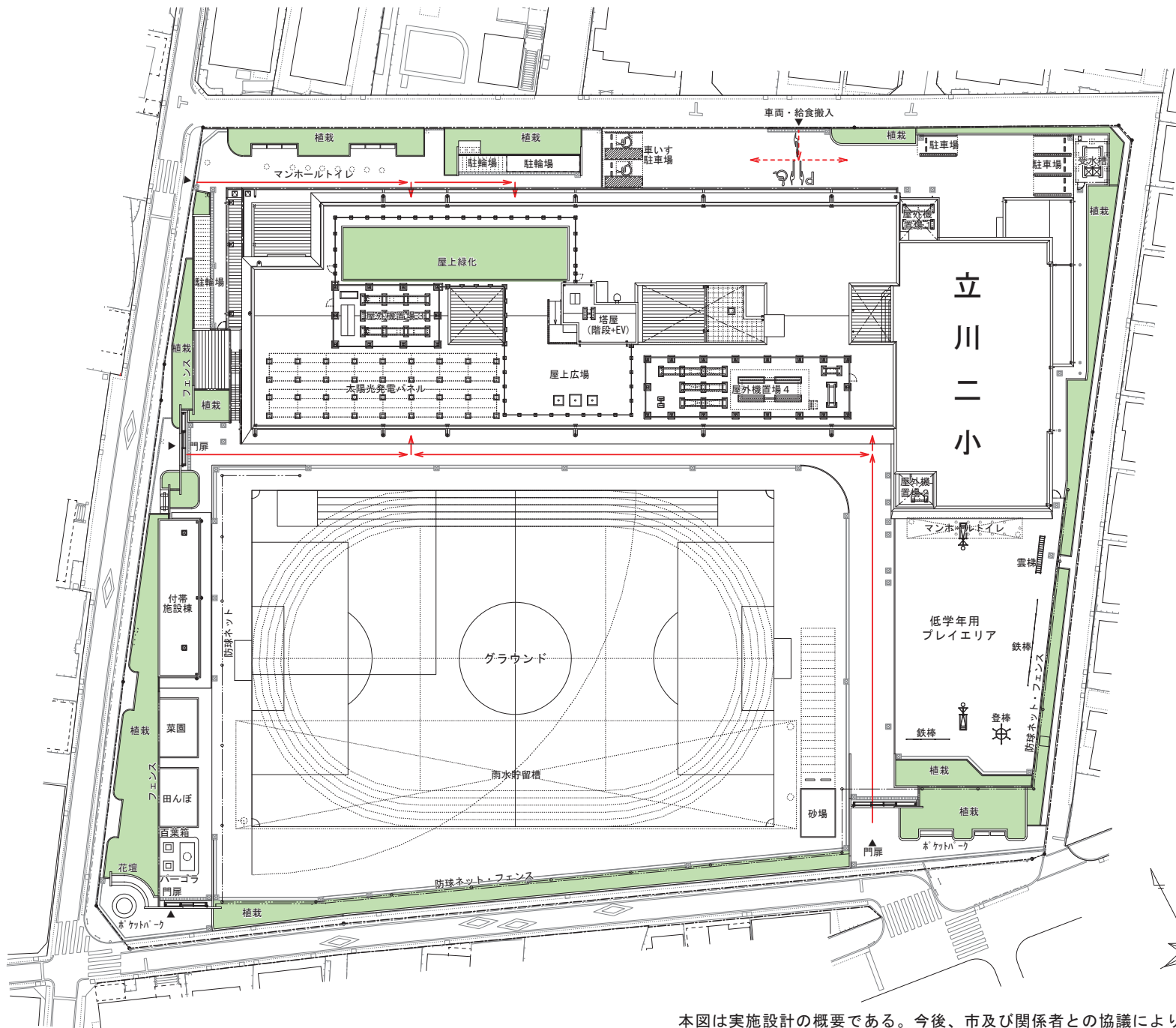
- 高い耐震性能と細やかな安全対策
 - ・構造体は避難所として満足する耐震レベルとし、非構造部材の耐震化、転落防止や衝突防止、ケガや誤飲の防止等、細やかな安全対策を行い、いきいき活動できる生活環境をつくります。
- 柔軟性のある防災拠点
 - ・災害時は段階に応じた使い方ができる・施設構成とし、特にインフラは地域の避難施設として、災害時においても施設機能を最大限利用できる設備計画とします。

(4) 地域コミュニティの拠点となる生涯にわたって利用できる複合施設

- 運用しやすい施設ゾーニング
 - ・学校専用ゾーン、児童館・学童保育所ゾーン、一般開放ゾーンを明確に区分し、運営諸室からの見通しを確保する計画により、全てのひとが安心して利用できる施設とします。
- 地域拠点施設として安全で近隣への影響の少ない施設配置計画
 - ・児童館・学童保育所ゾーンは、地域子育て支援施設の拠点として安全かつ利便性の高いアプローチにするため、歩道のある西側に配置し、体育館は日影の影響が少ない東側に配置します。
- 学校・学童保育所・児童館・地域が共有する交流空間の創出
 - ・学校昇降口と児童館の玄関、学童保育所の玄関の間にコミュニティストリートを設置し、複合施設間の交流の場として活用し、多様な価値観にふれる交流空間をつくります。
- 地域コミュニティの拠点としての複合施設
 - ・地域の方や学校関係者が利用するコミュニティルームや地域交流室はコミュニティストリートに面して配置し、地域学校連携を促します。また、コミュニティストリートを地域に開くことで、学校を中心とした地域コミュニティの醸成を促します。

(5) LCCを抑えた3階建てのコンパクトな施設計画

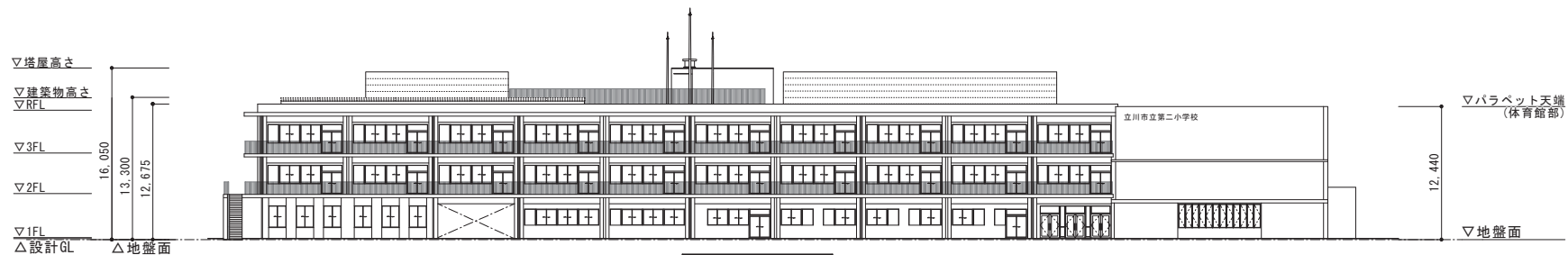
- コストを削減しつつ快適な学習環境を実現する建替え計画
 - ・新設校舎はシンプルな形態の3階建てとし、敷地を効率的に活用するとともに学習環境の変化や近隣への影響を最小限に抑えた計画とします。
 - ・廊下・階段・EV等の共用部の面積を効率化し、多彩な学びの場に転換します。
- 長期的利活用を見据え将来の改修、更新、維持管理を踏まえた施設計画
 - ・十分な採光と通風、明快で距離の短い避難経路を基本とし、内装制限や消防設備等を最小限にすることで、建設や更新のコスト、保守・点検のコストを削減します。
 - ・バランスの良い経済的な構造計画とともに、日常的なメンテナンスや将来の改修・更新を考慮した計画とすることで、ライフサイクルコスト(LCC)を抑制します。



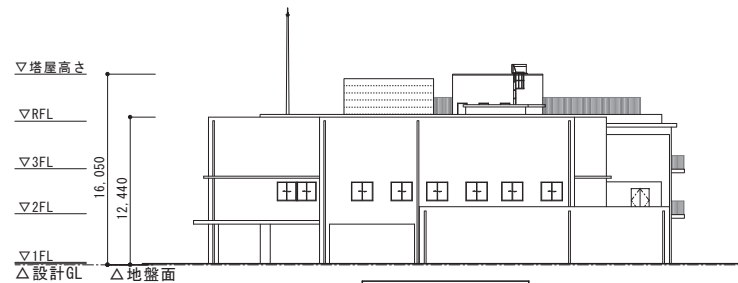
本図は実施設計の概要である。今後、市及び関係者との協議により、変更となる場合がある。



本図は実施設計の概要である。今後、市及び関係者との協議により、変更となる場合がある。



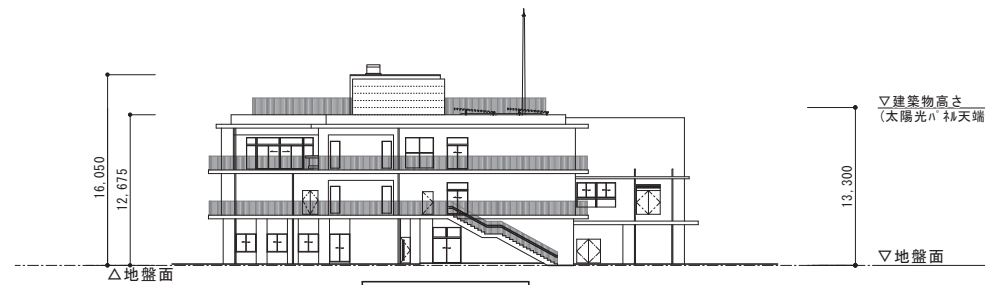
南側立面計画図



東側立面計画図



北側立面計画図



西側立面計画図

本図は実施設計の概要である。今後、市及び関係者との協議により、変更となる場合がある。